

災害(大雨・土砂災害)に対する注意点

大雨が予想される場合



- 台風の接近や梅雨前線の停滞による大雨が予想される場合、気象台からの気象情報や町からの警戒情報に注意する。

気象警報等が発令された場合



- 大雨による災害の恐れがある場合に大雨警報が発令されます。状況によっては、町から避難準備情報も発表されますので、土砂災害警戒区域や浸水想定区域内の住民は、早めの避難を検討する必要があります。
- 大雨警報が発表され、さらに土砂災害発生危険がある場合に土砂災害警戒情報が発表されます。町からは特定の区域に避難勧告等を発令する場合がありますので、避難対象区域や土砂災害警戒区域の住民は、より安全な場所への避難が必要となります。

避難行動



- 河川の氾濫や浸水が想定される場合は、高台等の安全な場所へ避難する。
- 避難場所へ移動できない場合は、近所の鉄筋コンクリート製等の頑丈な建物に避難する。



- 避難の際は、非常持出品はリュックに入れ、ヘルメット等を着用し、動きやすい服装、長靴ではなく、履きなれた靴をはく。



- 浸水している場合は、棒などを使って地面を探りながら避難。
- 大雨で増水しているときは、河川や用水路を避け、安全な避難経路をとる。



- 50cm以上の水深(大人のひざ丈)で浸水が発生している場合は、無理に避難しない。



- 山等の斜面で、災害の前兆現象(斜面にひび割れが生じる。小石が落ちてくる。土のおいがする。斜面から水が湧き出る。湧水が濁る。地鳴りが聞こえる。)がみられたら、速やかに安全な避難場所に避難する。
- 土砂災害警戒区域に居住しており、避難勧告等が発令された時点で、既に大雨で避難ができない場合は、屋内でも上階の谷側に退避する。

屋内の安全対策

- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオの準備
- 避難に備えて貴重品などの非常持出品の準備
- テレビやラジオで最新の情報を入手する
- むやみに外出しない
- 飲料水を確保しておく(断水などの恐れがある)
- 浸水などの恐れがある地域では、家財道具や食料品・衣料・寝具などの生活用品を高い場所へ移動
- 子どもや高齢者、病人、障がい者等は早めに安全な場所へ避難
- 町の防災行政無線に注意する



大雨・洪水に関わる注意報・警報について

大雨	気象庁が発表する情報			発表基準 (偏道町の場合)	とるべき行動
	土砂災害	浸水害	洪水害		
約1日程度前 大雨の可能性が高くなる					気象情報・空の変化に注意
↓					
半日～数時間前 大雨始まる					
↓					
強さ増す		大雨注意報	洪水注意報		最新の情報に注意して、災害に備えた早めの準備を！ 雨・風の影響を受けやすい地区・避難困難者は早めの行動！
↓					
数時間前～ 2時間程度前	大雨警報 (土砂災害)	大雨警報 (浸水害)	洪水警報	1時間降水量 [平地地:40mm [平地地以外:60mm 土壌雨量指数:112	偏道町が発表する避難に関する情報に注意し、必要に応じて速やかに避難！
↓					
大雨が一層 激しくなる	大雨特別警報 (土砂災害)	大雨特別警報 (浸水害)		48時間降水量:258mm 3時間降水量:98mm 土壌雨量指数:169	ただちに命を守る行動をとる！ 避難場所へ避難するか、外出することが危険な場合は家の中で安全な場所にとどまる
↓					
広い範囲で 数十年に一度の 大雨				1時間降水量:100mm	

雨の強さと降り方

1時間雨量	予備用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10～20mm	やや強い雨	ザーザーと降る	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。
20～30mm	強い雨	どしゃ降り	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。
30～50mm	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。
50～80mm	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	マンホールから水が湧き出す。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80mm～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある 恐怖を感じる	雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。